

簿 記

(全 問 必 答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ～ 〕(配点 40)

A 次の(1)～(3)は取引の記帳に関する説明である。空欄 ～ ,
 ・ および ～ にあてはまる債権・債務または収
 益・費用を表す勘定科目を、それぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

- (1) 商品売買において、商品の受け渡しに先立ち、当店が仕入先に代金の一部を現金で支払ったとき、当店は 勘定に記入し、仕入先は 勘定に記入する。とくに、商品売買契約の履行を確実にするために、当店が仕入先に代金の一部を手付金として現金で支払ったときは、当店は 勘定に代えて 勘定に記入し、仕入先は 勘定に代えて 勘定に記入することがある。

～ の解答群

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| ① 預り金 | ② 支払手付金 | ③ 前払金 | ④ 仮受金 |
| ⑤ 仮払金 | ⑥ 前受金 | ⑦ 立替金 | ⑧ 受取手付金 |

(2) 当店が商品券を発行して現金を受け取ったとき、商品券と引き換えにその金額に相当する商品を引き渡す債務が生じる。この債務を示すために当店は

オ 勘定に記入する。

後日、上記の商品券と引き換えに同額の商品を引き渡したとき、当店は

オ 勘定と **カ** 勘定に記入する。

オ ・ **カ** の解答群

- | | | | |
|--------|---------|-------|--------|
| ① 有価証券 | ② 売掛金 | ③ 借入金 | ④ 支払手形 |
| ⑤ 商品券 | ⑥ 試用仮売上 | ⑦ 現金 | ⑧ 売上 |

(3) 営業に使用してきた車両を中古車販売店へ売却し、代金の受け取りが当月末になるとき、当店は **キ** 勘定に記入し、この車両を商品として購入した中古車販売店は **ク** 勘定に記入する。また、家具店で販売されている机を当店の事務用に使用するために購入し、その支払いを当月末に行うとき、当店は **ケ** 勘定に記入し、家具店は **コ** 勘定に記入する。

キ ~ **コ** の解答群

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ① 貸付金 | ② 立替金 | ③ 未払金 | ④ 買掛金 |
| ⑤ 預り金 | ⑥ 借入金 | ⑦ 売掛金 | ⑧ 未収金 |

簿記

B 広島商店は、鳥取支店と山口支店をもち、本店集中計算制度を採用している。商品の仕入れは本店が一括して行っている。次の(1)~(6)は広島商店の取引と、そのときの本店・支店の仕訳である。空欄 **サ** ~ **ニ** および **又** ~ **ホ** にあてはまる勘定科目を、それぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じものを何度選んでもよい。

(1) 本店は、鳥取支店に商品¥30,000(原価)を送り、鳥取支店はそれを受け取った。

[本店]	(借)	サ	30,000	(貸)	シ	30,000
[鳥取支店]	(借)	ス	30,000	(貸)	セ	30,000

(2) 鳥取支店は、山口支店の得意先から売掛金¥40,000を現金で受け取り、本店と山口支店はこの通知を受けた。

[本店]	(借)	ソ	40,000	(貸)	タ	40,000
[鳥取支店]	(借)	チ	40,000	(貸)	ツ	40,000

(3) 本店は、山口支店の従業員の旅費の概算額¥80,000を現金で立替払いをし、山口支店はこの通知を受けた。

[本店]	(借)	テ	80,000	(貸)	ト	80,000
[山口支店]	(借)	ナ	80,000	(貸)	ニ	80,000

サ ~ **ニ** の解答群

① 本店	② 鳥取支店	③ 山口支店	④ 現金
⑤ 売掛金	⑥ 買掛金	⑦ 未払金	⑧ 未収金
⑨ 仮払金	⑩ 仮受金	㉑ 立替金	㉒ 預り金
㉓ 仕入	㉔ 旅費		

(4) 鳥取支店は決算の結果、当期純損失¥ 500,000 を計上し、本店はこの通知を受けた。

〔本店〕 (借)	<input type="text" value="ヌ"/>	500,000	(貸)	<input type="text" value="ネ"/>	500,000
〔鳥取支店〕 (借)	<input type="text" value="ノ"/>	500,000	(貸)	<input type="text" value="ハ"/>	500,000

(5) 山口支店は、本店に現金¥ 30,000 を決算日直前に送金したが、決算日までに本店には届いていないことがわかった。本支店の財務諸表を合併するために、この取引を仕訳の形式で示した。

〔本店〕 (借)	<input type="text" value="ヒ"/>	30,000	(貸)	<input type="text" value="フ"/>	30,000
----------	--------------------------------	--------	-----	--------------------------------	--------

(6) 本店は、山口支店の保険料¥ 50,000 を現金で立替払いをしていたが、この通知が決算日までに山口支店に届いていないことがわかった。本支店の財務諸表を合併するために、この取引を仕訳の形式で示した。

〔山口支店〕 (借)	<input type="text" value="ヘ"/>	50,000	(貸)	<input type="text" value="ホ"/>	50,000
------------	--------------------------------	--------	-----	--------------------------------	--------

~ の解答群

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| ① 本店 | ② 鳥取支店 | ③ 山口支店 | ④ 売掛金 |
| ⑤ 買掛金 | ⑥ 未収金 | ⑦ 未払金 | ⑧ 仮払金 |
| ⑨ 立替金 | ⑩ 純損失 | ⑪ 損益 | ⑫ 現金過不足 |
| ⑬ 未達現金 | ⑭ 保険料 | | |

第2問 札幌商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、複合仕訳帳制を採用しており、普通仕訳帳に加えて、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳および売上帳を特殊仕訳帳としている。同店は、特殊仕訳帳の合計額による仕訳を普通仕訳帳に記入して、それを総勘定元帳の各勘定に転記する方法を用いている。したがって、普通仕訳帳には、特殊仕訳帳に記入されない取引と月末の合計仕訳が記入される。

資料1 は、平成×年度の期首貸借対照表である。

資料2 は、1月の普通仕訳帳である。ただし、普通仕訳帳に記入すべき事項は、これ以外にはない。なお、小書きは省略している。

資料3 は、各特殊仕訳帳の諸口欄の内訳をすべて示したものである。

資料4 は、1月末の合計試算表である。

これらの資料にもとづき、次の問い(問1～3)に答えよ。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ヌ** 〕(配点 30)

問1 空欄 **ア** ～ **ス** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(1) 当月の総仕入高は¥ **ア** , **イ** **ウ** 0 である。

(2) 当月の純売上高は¥ **エ** , **オ** **カ** 0 である。

(3) 期首現金有り高は¥ **キ** **ク** 0 である。

(4) 当月の現金売上高は¥ **ケ** **コ** 0 である。

(5) 当月に為替手形の振り出しがあったが、その金額は¥ **サ** 0 である。ただし、自己受為替手形および自己あて為替手形の振り出しはなかった。

(6) 当月の営業費の支払高は¥ **シ** **ス** 0 である。

問 2 資料 3 の空欄 セ ・ ソ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

セ ・ ソ の解答群

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| ① 現金 | ② 当座預金 | ③ 受取手形 | ④ 売掛金 |
| ⑤ 備品 | ⑥ 支払手形 | ⑦ 買掛金 | ⑧ 借入金 |
| ⑨ 仮受金 | ⑩ 引出金 | ㉑ 売上 | ㉒ 仕入 |

問 3 資料 3 および 資料 4 の空欄 タ ～ ヌ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記

資料1 期首貸借対照表

資 産			金 額	負債および資本			金 額
現 座 預 金			()	支 払 手 形			80
当 座 取 手			890	買 掛 金			800
受 取 掛			220	借 入 本			()
売 商 備			280	資 本			1,500
			320				
			200				
			()				()

資料2 1月の普通仕訳帳

平×	成年	摘 要		元丁	借方	貸方
1	1	前 期 繰 越 高			2,700	2,700
	22	(買 掛 金)	(売 掛 金)		80	80
	31	(現 金)	諸 口		1,210	400
			(売 掛 金)			810
			(諸 口)			1,000
	"	諸 口 (現 金)		(省)	60	
		(買 掛 金)			940	
	"	(当座預金)	諸 口		()	410
			(売 掛 金)			()
			(諸 口)			()
	"	諸 口 (当座預金)			()	
		(買 掛 金)			210	
	"	(仕 入)	諸 口		()	700
			(買 掛 金)			360
			(諸 口)			40
	"	(買 掛 金)	(仕 入)		40	
	"	諸 口 (売 上)				3,130
		(売 掛 金)			1,700	
		(諸 口)			1,430	
	"	(売 上)	(売 掛 金)		90	90

資料3 1月の各特殊仕訳帳の諸口欄内訳

〈現金出納帳借方の諸口欄内訳〉

現金過不足 ￥ 10
 売上 ()

〈現金出納帳貸方の諸口欄内訳〉

営業費 ￥ ()
 当座預金 600
 仕入 200
 セ 70

〈当座預金出納帳借方の諸口欄内訳〉

ソ ￥ 70
 現金 600
 売上 500
 受取手形 ㊦㊦ 0

〈当座預金出納帳貸方の諸口欄内訳〉

支払手形 ￥ 50
 仕入 ()
 営業費 70

〈仕入帳の諸口欄内訳〉

当座預金 ￥ ㊦ 0
 支払手形 ㊦ 0
 現金 200

〈売上帳の諸口欄内訳〉

現金 ￥ ()
 受取手形 130
 当座預金 ㊦㊦ 0

資料4 1月末の合計試算表

合計試算表

平成×年1月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
2,000	（省略）	現金	1,000
2,570		当座預金	㊦㊦ 0
350		受取手形	100
1,980		売掛金	980
320		繰越商品	
200		備前払手形	150
50		支買掛金	1,500
680		借入金	320
		仮受本出	70
70		資引	1,500
90		引売仕	()
()		営業	40
()		現金過不足	10
()			()

簿記

第3問 資料1 は津株式会社の前期末繰越試算表である。資料2 は同社における当期(平成5年4月1日から平成6年3月31日まで)の取引の一部、資料3 は決算整理前残高試算表、資料4 は決算整理事項、および資料5 は損益勘定と繰越試算表である。

資料3 および資料5 の空欄 ア ~ 又 にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。ただし、金額の単位はすべて百万円である。なお、()は各自で考えること。[解答記号 ア ~ 又](配点 30)

資料1 前期末繰越試算表

繰越試算表

平成5年3月31日

借方	金額	貸方	金額
現金	90	買掛金	200
当座預金	185	未払法人税等	50
受取手形	200	借入金	300
売掛金	250	貸倒引当金	20
繰越商品	95	建物減価償却累計額	36
建物	200	備品減価償却累計額	40
備品	200	資本金	400
土地	220	資本準備金	140
		利益準備金	95
		任意積立金	67
		未処分利益	92
	1,440		1,440

資料2 当期の取引(一部)

5月22日 京都商店に対する売掛金¥50が貸し倒れとなった。

6月28日 株主総会において、未処分利益¥92が次のように処分され、残額は次期に繰り越された。

株主配当金：¥50 役員賞与金：¥20 任意積立金：¥10

利益準備金：¥5

なお、当社は、毎決算期に利益の処分として会社が支出する金額の10分の1以上を、資本金の4分の1に達するまで利益準備金として積み立てている。

10月1日 増資のため、額面株式(1株の額面金額¥10)30株を1株につき¥16で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、資本金に組み入れる金額は、1株につき¥10としている。当期中の増資および減資はこの取引以外にはない。なお、新株発行に要した諸費用¥10は小切手を振り出して支払った。

11月30日 法人税および住民税の中間申告を行い、¥30を小切手を振り出して支払った。

3月31日 平成4年4月1日に一括購入した備品¥200のうち¥100を現金¥60で売却した。売却した備品の当期に係る減価償却費は12か月分計上し、その上で売却損益を計算している。備品の減価償却費は定率法で計算している。

簿 記

資料 3 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

平成 6 年 3 月 31 日

借 方	金 額	貸 方	金 額
現 金	250	買 掛 金	142
当 座 預 金	380	借 入 金	300
受 取 手 形	110	建物減価償却累計額	36
売 掛 金	190	備品減価償却累計額	()
繰 越 商 品	95	資 本 金	㊦㊦㊦
仮 払 法 人 税 等	()	資 本 準 備 金	()
建 物	200	利 益 準 備 金	㊦㊦㊦
備 品	100	任 意 積 立 金	77
土 地	542	未 処 分 利 益	()
仕 入	400	売 上	768
給 料	70		
支 払 家 賃	24		
消 耗 品 費	5		
貸 倒 償 却	()		
減 価 償 却 費	()		
支 払 利 息	14		
()	()		
固定資産売却損	㊦		
	2,470		2,470

資料4 決算整理事項

- (1) 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸し倒れを見積もる。なお、当期中の貸し倒れは、5月22日の取引以外にはない。
- (2) 期末商品について棚卸減耗費と商品評価損を計上する。期末商品の実地棚卸数量は10個、時価は@¥9である。
- (3) 建物および備品について減価償却を行う。建物は、平成3年4月1日に取得したものであり、残存価額を取得原価の10%として定額法によって計算する。なお、固定資産の減価償却は每期継続して同じ計算方法を用いている。また、3月31日の備品の売却を除いて、当期中に建物および備品にかかわる取引はなかった。
- (4) 支払家賃¥24は、平成5年10月1日からの家賃1年分を支払ったものである。また、消耗品費は事務用文房具¥5を当期中に購入したものであり、事務用文房具の未使用分が¥3ある。
- (5) 法人税等¥40を計上した。

簿記

資料5 損益勘定と繰越試算表

		損	益	
仕	入	768	売	上 768
給	料	70		
支	家賃	250		
払	費	50		
消	却	20		
貸	却	10		
倒	償	()		
棚	減耗	14		
卸	費	40		
商	損	122		
品	費	768		
減	却			
価	却			
償	却			
支	利			
払	息			
()				
固	損			
定	等			
資	等			
産	利			
売	益			
却				
損				
等				
未				
処				
分				
利				
益				
		768		768

繰越試算表

平成6年3月31日

借	方	金額	貸	方	金額
現	金	250	買	掛	金 142
当	預	380	()	()	250
座	金	110	借	入	金 300
受	手	190	貸	倒	引
取	形	250	当	引	当
掛	金	190	金	引	当
繰	商	250	建	物	減
越	品	()	物	減	価
消	品	()	減	償	却
耗	品	()	累	計	額
前	家	()	備	品	減
払	賃	()	備	品	減
建	物	200	資	本	金
備	物	100	資	本	準
土	品	100	備	金	金
	地	542	利	益	準
			備	金	金
			任	意	積
			立	金	金
			未	処	分
			利	益	金
					77
					()
		1,877			1,877